

留都の生大文 故郷と都留

15

私が初めて都留市に来たころ、困ってしまったことがありました。静かすぎて寝られないことと、圧迫感を感じることでした。私の下宿の裏には畑があり、その向こうには山が連なっています。夜は山が冷気を帯び、山から下りてくる空気が音を持たないほど冷たく澄んでいて、私を怖がらせたんです。昼間も空を見ると視界の隅に山が映ることが多かったので、山に見られていてという気がして圧迫感を感じ、苦しくなりました。

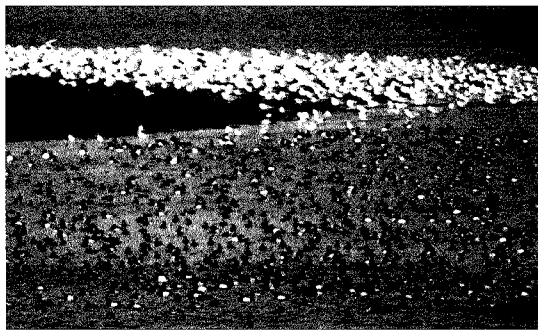


干潟で食をとるダイサギ

家族旅行は八ヶ岳などの自然が多い所に行くことが多く、自然に触れるのは気分が爽やかになっていいなと思っていました。だから喜んで都留に来たのですが、自然に囲まれる生活をして苦しくなるとは予想だにしませんでした。自分は自然の本来の姿を見ていなかったのかもしれない。今も台風の日などは怖い思いをしますが、自然が自分を育てているのだと思うと温かさを感じるようになりました。そう思った時、私は都留で自然と触れ合えたからいいけれども、名古屋の人が地元で自然に出会える所はあるのだろうかと思いましたが、

名古屋市には少ないですが緑がありました。今回皆さんに紹介したいのは島田湿地という自然生態園です。ここは昔、広大な湿地帯だったんですが、宅地化が進み、湿地の面積が減ったので、名古屋市によって保護されています。私が訪れた時には、世界最小のハッチョウトンボや銀ヤンマが飛び交い、澄んだ池に卵を産み落とす姿を見ました。この池なら色々な命が育つだろうと思えるぐらいツツと澄んでいるんですよ。水辺ではモウセンゴケが小さな虫をそのネチネチした葉に捕まえており、その周りにはシラタマホシクサが緑のじゅうたんに白い星々をちりばめたかのように花を咲かせてゆれていました。近くの土管の中では、黄土色でいぼいぼの肌をした山椒魚にも偶然出会うことができ、本来はこのような所に生息するのだと知りました。春の雨上がりの晴れた日には、近くの竹やぶへタケノコ掘りに出かけたこともあります。泥にまみれながら掘っている竹やぶの清廉な香りと涼しさが心地よかったのを覚えています。自然の命は、土の持つ温かさや水の持つ純粋さによって、生かされているのだなと思いました。

しかし、現在は周辺の住宅から出るゴミなどで生態が崩れつつあり、市に申請しなくては入園することができなくなってしまうました。既にトウキョウ山椒魚など、絶滅したものがあろうです。保護されている自然がカッコ付きの自然なのだと思います。名古屋市には自然が一握りしかないのに、環境が汚染されれば、すぐに危険信号を発します。人が多いので、ゴミの分別はほとんど地域で徹底しており、名古屋市はプラスチックを不燃物として扱



スズガモ(手前)とユリカモメ(奥)の大群(藤前干潟)

い、缶・ビンとは別々に回収しています。しかし、ゴミの量は増えていて、藤前干潟をゴミ埋め立て地にするかどうかという計画も出ているんです。父がフライングを見たと言ったので藤前干潟には一度行ったことがあります。残念ながら目当てのフライングには会えま

い、缶・ビンは別々に回収しています。しかし、ゴミの量は増えていて、藤前干潟をゴミ埋め立て地にするかどうかという計画も出ているんです。父がフライングを見たと言ったので藤前干潟には一度行ったことがあります。残念ながら目当てのフライングには会えま

自然と人間

比較文化学科 二年
青木千穂

